2023 年度 財務専門官本試験（専門試験［多肢選択式］）　講評　その②

No.	科目	出題内容	正解	正答率※
41	政治学・社会学	福祉国家	1	C
42		議会と政党	4	A
43		政治における多様性・多元性	4	C
44		パーソナリティや社会的性格	1	A
45		メディアに関する研究	3	A
46		近代・現代社会	2	A
47	会計学	我が国の会計の基礎	3	C
48		資産の分類と評価	2	A
49		棚卸資産評価方法	4	B
50		負債会計	5	C
51		収益認識	1	A
52		国際化に伴う会計	2	A
53	経営学	意思決定	1	A
54		経営戦略	2	A
55		人的資源管理	1	A
56		財務管理	3	A
57		技術経営	1	A
58		国際経営	4	A
59	英語	内容把握	5	C
60		内容把握	3	B
61		文章整序	5	A
62		文章整序	2	B
63		空欄補充	1	B
64		空欄補充	3	A
65	情報数学		4	C
66			2	C
67			2	C
68			4	C
69			4	C
70			3	C
71	情報工学		5	C
72			2	C
73			4	C
74			3	C
75			4	C
76			1	C

講評

【政治学・社会学】　政治学：No.41「福祉国家」およびNo.43「政治における多様性・多元性」の正解肢（ウィレンスキー、テイラー）は、いずれも地上国家一般職レベルでは扱わない人物である。正答できない受験生が多くいたことが推測されるが、「ハイエクは、『アナーキー・国家・ユートピア』において」のように、その他の選択肢の内容が非常に平易である。消去法で対応できた問題である。No.42「議会と政党」は正解肢も含めて、すべての選択肢の内容が平易である。確実に得点したいところである。できれば３問すべて正解したい。

社会学：No.44～46 のいずれの問題も，人名と学説・用語の組み合わせで解けてしまう易問ばかりであった。No.44 のパーソナリティ・社会的性格に関する学説では見慣れないマルクスが出されていたが，その内容はM. ミードのものであることがすぐにわかったであろう。No.45 のメディアに関する研究でやはり見慣れないタルドが出されていたが，これもNo.44 と同様で，内容は別の学者のもの（リップマン『世論』）である。No.46 の近代・現代社会に関する問題では，Kマスターにないリオタールの名前が出ているが，リオタールの学説を知らなくても，本文の説明はバウマンの『リキッド・モダニティ』についてのものなので，すぐに間違いであることはわかったはずである。

【会計学】　No.47 は会計の基礎に関する問題で基礎的な知識を問う問題であった。各論よりは総論的な知識を問うこともあり、回答しやすかったと考える。No.48 は資産に関する問題であるが、各肢で問われている語は比較的定番であり、これらの定義や概要をおさえていると解答しやすい。No.49 は棚卸資産の評価方法の知識を問うもので、各評価法の概要を知っておく必要があった。評価法については定番論点が出題されていたことから解答しやすかったと思われる。No.50 は負債会計に関する問題で、定番の引当金が問われていたので正答したい問題であった。No.51 は収益認識に関する問題であった。収益認識については近年に会計基準が大きく変わったことから注意して解く必要があった。一方で、問われた論点は基本的な部分も多くあったことから事前に学習していた受験生は解きやすかったと思われる。No.52 は国際化に伴う会計に関する問題で、あまり出題されていない論点であった。為替や外貨など手薄になりがちな論点が含まれていることから苦労した受験生も多かったと思われる。

【経営学】　No.53 は意思決定は無関心圏が難しいが消去法で正解できる。No.54 は経営戦略であるがポーターなどの有名な学説が出ておらず、中心テーマを外した出題である。No.55 は人的資源管理であるが、職務充実と職務拡大は有名テーマである。肢４の職務給が難しいために少し難しい。No.56 の財務管理は内部収益率法だけでなく、ROA など幅広い分野から出題されており正解が難しい。No.57 の技術経営やNo.58 の国際経営は、受験生が手薄なテーマである。とはいえ、オープンイノベーションのチェスブロウは過去にも他の職種で出ており、直接投資と間接投資も過去に出題がある。よって、正解は可能である。全体をしっかりと学習した受験生は５問以上が狙える問題である。未学習のテーマがあった人でも×肢が分かりやすいものが例年より多いので４問正解は狙えるだろう。よって、難易度としては、例年よりもやや易しいといえる。

【英語】　今年度の選択率は 12.3％であった。内容把握２題，文章整序２題，空欄補充２題（単語補充）の構成で、昨年と比較すると内容把握が１題減り、その分文章整序が増えた。全体的にやや難易度が上がっており、特にNo. 50 の整序問題は文章量も多く、解きにくいと感じた受験生も多かったと思われる。

【情報数学】・【情報工学】　省略

※　正答率（Ａ：60%以上，Ｂ：40%以上 60%未満，Ｃ：40%未満）は，ＬＥＣ公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ（6/9 時点）に基づいて算出しています。
本成績診断のご利用方法等の詳細は，ＬＥＣ公務員 Web サイトの専用ページ（https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/）にてご案内しています。